平成２０年度第１回はけの森美術館運営協議会

議　事　録

開催日時　　平成２０年７月８日（火）午後６時～７時２０分

開催場所　　小金井市前原暫定集会施設２階　Ｂ会議室

委　　員　　出席：鉄矢悦朗委員長、宮村令子副委員長、千村裕子委員、
淀井彩子委員、小柳　清委員

欠席：冨士道正尋委員

事 務 局　　薩摩雅登学芸顧問
大野　玲学芸員、神津瑛子学芸員、天野達彦事務担当
鈴木雅子文化推進係長

議事内容

【鉄矢委員長】　　きょうはメンバーの、冨士道委員が欠席です。６時になりましたので、始めたいと思います。ごぶさたしております。よろしくお願いします。

【一同】　　よろしくお願いします。

【鉄矢委員長】　　では、これから、平成２０年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催いたします。議事進行をさせていただきます。議事内容に従って進めていきます。

初めに、今回は、学芸員さんたちが変わったので、忙しいところですけれども、お集まりいただきました。では、新任学芸員の紹介ではなくて、運営についてということで事務局からお願いいたします。

【小柳委員】　　よろしいですか。４月１日付で職員の人事異動がございましたので、ご報告させていただきます。上原市民部長が企画財政部長に異動しまして、その後任として、久保保険年金課長が昇任昇格の上、市民部長に就任しましたので、ごあいさつを兼ねてご紹介します。よろしくお願いします。

【久保市民部長】　　今、紹介いただいた久保と申します。４月１日から市民部長として就任したんですが、非常に守備範囲が広くて、はけの森美術館も就任して初めて担当させていただきます。よく考えますと、その前の職場の保

険年金課の前に生涯学習課にいまして、そのときにはけの森美術館の、あれは基本計画だったのか実施計画だったのか、その策定のためのプロポーザルの委員がございます。非常に申しわけないという気もあるんですが、そういうような状態で、ほんとうに初めてはけの森美術館の中を学芸員さんに案内していただいて、非常にいい建物だなと。それまでも印象は一応ちょっと違うと思いますけれども、市の考え方がそのまま入っていたものですから、非常にとてもいい施設だなと改めて感じました。きょう、こういう運営協議会があるということでご挨拶かたがた皆様にご指導ご協力いただいて、ぜひ努めさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【鉄矢委員長】　　よろしくお願いいたします。

【小柳委員】　　次に、学芸員を紹介させていただきます。同じく４月１日から学芸員として勤務していただいております、大野学芸員と神津学芸員です。それぞれごあいさつをよろしくお願いします。

【大野学芸員】　　大野です。初めましてではなくて初年度一年間お世話になりました。やむを得ない事情で一度退職したんですが、今回また戻ってまいりましたので、よろしくお願いします。１年の退職期間の間にも、特に堂本印象美術館展などでは自分が企画したということもありましてボランティアとしてお手伝いしたり、シンポジウムでは一学生スタッフとして参加させていただきました。その関係もありまして、ちょっと離れてはいましたけれども美術館の、三年目に入りましたけれども、運営、活動についてはある程度は私なりに理解しているつもりです。色々と前進した成果が出た部分ですとか課題として残っている部分、色々あるかと思います。私がいない間のこともありますので、また教わりながら行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【神津学芸員】　　私は初めましてになります。４月からお世話になっております神津と申します。大野さんはじめ皆さんに助けていただきながら頑張りたいと思っております。よろしくお願いします。

【鉄矢委員長】　　では、次です。

引き継ぎ事項、運営協議会等で話された内容が事務局の中でしっかりと伝わっているかということを含めまして、引き継ぎ事項の確認を事務局からお願い

したいと思います。

【小柳委員】　　それでは、よろしいでしょうか。私のほうからご説明させていただきます。

まず、小金井市で初めて開設される美術館として、市民や関係者から期待と注目を受けて、また寄附者である中村富子さん、当時９８歳、現在では１０１歳のご年齢なんですけれども、その方と介護者の馬目ご夫妻とともに２階に居住しておりまして、中村研一画伯の作品の展示や美術館運営について強い関心を持っておられる状況で、当美術館は平成１８年４月に市立美術館として開館した状況です。

しかしながら、美術館には正規職員は配置されておりませんで、再任用職員と非常勤学芸員２名、臨時職員１名の変則勤務による運営で当初スタートしております。それから、再任用職員が、６月には、平成１８年度ですけれども、一身上の都合により退職をしまして、残された学芸員、当時は横田学芸員、大野学芸員の２名の努力と、文化推進係の応援体制あるいは薩摩学芸顧問の指導、ご協力によりまして、この年度を終了したのが平成１８年度でした。翌年の平成１９年度には大野学芸員が４月に退職するということが事前にわかっておりましたので、また芸術文化振興基金の助成金を東京都から受ける申請を出しておりましたので、４月に新たに学芸員２名、松山学芸員と奥友学芸員を募集しまして、５月から実際に勤務をしていただいておりました。

また、再任用職員として、天野さんが事務職を担当していただくということで、４月からの勤務をしていただいておりました。ところが、学芸員３名の体制で平成１９年度は勤務していたんですが、横田学芸員、松山学芸員、奥友学芸員それぞれが都合によりまして３月に退職をしたというのが現状です。平成２０年度につきましては、現体制で取り組んでいる状況がございます。そういったところが平成１８年度から今年度にかけての勤務体制といいますか、そういうところが引き継いだ状況になるかと思います。

以上です。

【鉄矢委員長】　　引き継ぎ事項の中で報告を加えるところと記録としても確認したいことなどありましたらお願いします。

非常勤体制の学芸員は、なるべく早期に解決してほしいという話をずっとし

ていました。そうでなければ３名体制にするかどうかということでした。しかし、平成１９年度に３名体制で、とりあえずは増えるので、その話はこの運営委員会の中だけにとどめておこうという話だったんです。今回のこういった状況で２名体制に戻っていくということは、これからも３名体制の希望とか、非常勤ではなく常勤にしてほしいという希望は出していってほしいといったところはなかったでしょうか。

【小柳委員】　　それにつきましては、今、現状、市役所の職員体制についても、今現在は７７３名、４月１日現在なんですが、それを行政改革の主眼で、６９６名まで減らしますということで、正規職員は減らす方向でいまして、東京都のほうにもなかなか減らない状況があるということで、行革担当のほうとしましても､なかなか厳しい状況にあるということで推移しております。正規職員を非常勤から正規職員に置くというところではなかなか市全体としても厳しい状況があるというのが現在の小金井市の現状になっております。

それで、そこにつきましては、美術館体制につきましては、今後、薩摩学芸顧問、あるいは職員同士、スタッフ同士でも検討しながら、どういう方向がいい方向でとれるか、ちょっと検討をしてまいりたいと思っております。

以上です。

【鉄矢委員長】　　今の発言は事務局としての発言ですか。

美術館長として必要ないという判断でしょうか。館長の意思を残しておいていただく必要があると思います。この協議会の中で、３名体制にしましょうとなり、館長にもそれをお願いしたときに、館長から、いや、今、３名体制になったから、今ここで大きく動かすと、その話も悪くなってしまうということでした。でも、そういう話だったので、我々の委員のほうもみんな納得したと思うんですね。すぐにそれができるとは思っていないです。ただ、美術館の館長が美術館をどういうふうに育てるかという中でのその努力をしていただけるかどうかの部分で、市の内情も存じ上げているつもりで、厳しいのも多分、各課がいろいろな希望を出して、みんなけられているというのもそういう状況だと思うんですけれども、そのときに、美術館から一切希望も出していないというのも、ちょっと私は気になることなんですけれども。

【小柳委員】　　その点につきましては、皆さんのご意見をいただきな

がら、館長としてお答えしますけれども、十分認識しているつもりです。それで、まず第一歩としまして、学芸部門を中心に今後の、２年運営してきて、そこから過去も振り返りながらいろいろな積み重ねをした段階でどういう体制が好ましいかということにつきましても、まず内部で検討して、それで皆さん、ご意見を持っていると思いますので、それを整理しながら進めてまいりたいと思います。

【鉄矢委員長】　　じゃあ、いいですかね。

【千村委員】　　財政事情が厳しいことは市として、ほんとうにこれは苦しいと思うんですけれども、やっぱり、なかなか文化的なものが、この市は一番遅れているかなと、残念に思うんですけれども、色々なところで行政改革というものをしてきて頑張って進めているものですから、美術館も、ほんとうに、だからもう少ないスタッフの皆さんも、知恵をしぼってユニークな活動をしていただききたいな、と強く言えない感じなんですが、頑張って、先ほども館長さんが言われたように、市民の期待を担っている、そういうのに少しこたえられるという活動をと、そう思っています。

【鉄矢委員長】　　非常に、運営協議会として体制をこういう方向に向けていてほしいという希望を出している体制は確認できたと考えてよろしいんですか。それは館長、小柳委員は、立場は何でしたっけ、この場合は館長が委員に入ってるんですね。

【事務局鈴木】　　はい、館長として委員になっています。

【鉄矢委員長】　　多分、小柳委員の立場も、すごく、今までいろいろな事情もよくご存じだから、難しい立場にいらっしゃるのかと思うんですけれども、ぜひ、運営協議会で上がったことをどこかに出すという活動はしていただきたいと思います。

【淀井委員】　　館長として責任を持ってね。

【鉄矢委員長】　　それは、役所が期待する美術館長として、美術館の館長として出したけどけられたというのは、我々も、それは事情でそうなんだろうと思いますけれども、どうも、何となく内部を知っているから……。

【淀井委員】　　あまり内輪で知り過ぎてて、考え過ぎというのもあると思うので、ちゃんと出してくださいね。

【鉄矢委員長】　　そのほか、引き継ぎ事項のほうで何かございますか。伝わっているだろうなと思っても確認しておきたいものは確認しておいたほうがいいと思います。思い出したら、またここのところに戻るということにしながら、進めたいと思います。

では、その他の項目に入りまして、平成２０年度開催済み事業についての報告書をお願いいたします。

【大野学芸員】　　では、私、学芸の方から報告をさせていただきます。お手元の資料１、事業報告（学芸）というものがありますので、ご参照ください。その中に、その他の（１)、(２）の両方の部分が入っておりますのでご了承下さい。

まず、２００８年所蔵作品展Ｉ「中村研一、人と芸術」ですけれども、これが開催済みの事業になります。展覧会の内容などに関しましては前回の運営協議会で報告していることと思いますので、今回は来館者の方への教育普及活動に注目して、重点的に作っております。１つ１つ、細かくはここでは話しませんけれども、まず４月の初めに、テレビ朝日の東京サイトという番組の取材が来まして、それが４月２４日に放映されました。テレビのほうで広報ができたということは非常にいい機会であったと思います。こちらはゴールデンウィークにお薦めする日帰りのプランという形で紹介されました。それから、施設見学、団体鑑賞と並んでおりますが、団体鑑賞というのは事前に申請があったものと当日いらして団体というのが判ったものが両方含まれております。基本的に学芸員の方でギャラリートーク等作品解説をさせていただいたものをここに挙げております。

例えば、４月９日の二水会ですとか、こちらは警察署ですとか消防署とかそういうところの職員の方、小金井市の応援団といいますか、市の職員の方がいらっしゃったものでした。あと、１８日が、調布の方から、図書館の方が主催している文学散歩でいらっしゃいました。割と、文学散歩の関連でいらっしゃる方が多いです。あと、５月の最初の小学校の鑑賞教育についてのミーティング。これは団体とは関係ないんですけれども、ご報告させていただきたいと思ってここに入れてあります。去年、あと一昨年度もですが小学校、市内の小学校からの団体での鑑賞教育はどう対応するのかという話がありました。アート

フル展がありましたので、鑑賞教育を目的とした特別展、こちらの方で来ていたのですが、今年はそれがないということで、でもぜひとも学校単位での鑑賞教育というのをやってほしいということを図工の先生方の方から意見がございました。じゃあどのようにやっていこうかというようなことをミーティングしております。具体的なことは決まっておりませんけれども、当館の活動としては非常に重要なことではないかと思ってますのでご報告させていただきました。

あと、五月に入っても公民館ですとか、高齢者の方のケア施設ですとか、そういうところからの団体鑑賞が多くありまして、積極的に学芸員の方からも展示室に出て行きまして作品解説をさせていただいております。

最後、下線を引きました関連企画、ギャラリートークとミュージアムツアーですけれども、こちらは土日であれば美術館で何かしているということを市民の方に広く知っていただきたいということで、毎週毎週何かを５月の後半から入れました。ギャラリートークの方は学芸員による解説、作品解説で、ミュージアムツアーの方はワークシートを使いました鑑賞ツアーです。本年度は教育普及に重点をおいた特別展というものはありませんけれども、こういう日常的な中で普及活動をこつこつ積み重ねていきたいと思っております。まだ、この「中村研一、人と芸術」の方ではやり始めたばかりということもあって、広報活動もなかなかうまくいきません。そういうこともあってか参加者の方は少なかったのですけれども、人は少なくても続けていこうと思っております。

委員長、こういう形でずっと最後までしてしまってよろしいですか。

【鉄矢委員長】　　はい、今のが開催済み事業ですね。

【大野学芸員】　　はい、「中村研一、人と芸術」までです。

【鉄矢委員長】　　はい。ということで、開催済みについてのご質問をいただきましょう。開催済みについての質問等ありますか。なければ、引き続き。またあとでも気がついたところがありましたら。

【大野学芸員】　　あと、今の補足ですけれども、ミュージアムツアーで使いました観賞用のワークシートを、今資料を持ってございますので、よろしければ回覧してください。

この「中村研一、人と芸術」所蔵作品展Ｉが終わりました後に、臨時休館の時期があったんですけれども、こちら当初よりも延長して長く、約一か月間休

館いたしました。その理由は昨年度の運営協議会でもお話ししましたけれども、特別収蔵室の空調機の入れ替えについての予算が取れましたので、工事が入りました。その関係で休館期間が延びました。、空調工事ついての報告を、事務方のほうからさせていただきたいと思います。

【事務局天野】　　では、よろしいでしょうか。今、大野から説明がございましたように特別収蔵室の空調機の具合いが悪いということで、予算要求をして、予算がついたため、その工事を、６月５日から３０日までの間、休館日に合わせて工事を行いました。　工事は、無事に完了し、検査も終わったという状況で、非常に順調に稼働してございます。昨年は、温度、湿度が不安定な状態で、作品の維持をするのに非常に不安な状態でございましたけれども、現在、設定が温度は２０度、湿度は５０％ということで、きちんと維持をされているということで、ご報告させていただきます。

以上でございます。

【鉄矢委員長】　　ありがとうございます。

【大野学芸員】　　それで、その空調工事の期間を利用しまして、学芸員のほうでは資料整理ですとか館内の整理の方をいたしました。今年度、調査・研究のほうを割りと重点的に予算もついておりますけれども、その関係もありまして資料整理というのがこの期間に出来たことは良かったと思っております。ただ、この休館期に、休館中なので何も普及活動とか、誰も入れませんというのではなくて、例えば、展示はしませんから、鑑賞はできないんですけれども、施設見学ですとか、そういうものには対応できるということで、休みではありましたが、二、三、依頼に対応したものがあります。まず、６月８日の日曜日ですけれども、立正大学から博物館実習のために見学したいという申し込みがありまして、大学の講師の先生の引率のもと学生さんが３０名いらっしゃいました。

あと、ひとつ入れ忘れたんですけれども、そのあと、６月２０日の金曜日に、東京都市町村教育委員会女性教育委員研修会というところから施設見学の依頼がございまして、東京都内の女性の教育委員の方々が見学にいらっしゃいました。今回、教育委員会の方々がいらっしゃったのはとても意味があったのではないかと思っております。２３日には地元の小学校が、調べ学習で学芸員の仕

事、美術館とはどんなものか知りたいというのがありまして、子供たちが中心になって見学に来ました。そのようなこともあったということをご報告させていただきます。

【鉄矢委員長】　　ありがとうございます。

【大野学芸員】　　そのあと、所蔵作品展Ⅱ「中村研一、画家のまなざし」が今開催中です。お手元の資料としてお配りしましたのがチラシですけれども、このチラシの裏面のほうを参照ください。下のほうに今回の展覧会での関連企画等も書いておりますので、そちらを見ながら簡単にお話したいと思います。関連企画ですけれども、まずワークショップ、「けんぼしゃんと遊ぼう　コラージュでアートを楽しむ」で、これは小さなお子さまから、自由に切り貼りして遊べるというワークショップ。あと、講座があります。年齢を上のほうに設定して、中学生以上で、講座「画家の交流、中村研一の書簡を読む」というもの。この２本立てで関連企画としております。あと先程言いましたようにギャラリートークとミュージアムツアーは毎週行なっていきます。

それから、市制施行５０周年記念企画としまして「美術館で模写」。これは、初年度の年度末ですか「花を描く」という模写ワークショップがありましたけれども、そのときも大変盛況でその後ご要望がありました。今回それにお答えする形で毎週金曜日に各日５名と限定しまして、１階展示室を開放するという試みをしております。いまのところまだこちら申し込み１人です。申し込みとしましては、ワークショップ「コラージュでアートを楽しむ」の方は大変盛況で、市報に載りました翌日から申し込みがありまして、もういっぱいになりました。会場を拡大して今まだ受付をしているというところです。あとは無料開放日などありますが、チラシの方ご参照下さい。

では、続けてよろしいですか。

【鉄矢委員長】　　はい、お願いします。

【大野学芸員】　　年度計画は前回の委員会で報告させていただいていると思いますけれども、今の段階でお話できることをお伝えしたいと思います。「松本市美術館蔵田村一男展」、これは（仮）というの入れてませんが仮の題です。また改めて、詳しい企画内容についてはご報告する機会があると思うんですけれども、今回特にこちらでご報告すべきかなと思ったものを二、三挙げて

おります。

まず、物販についてですが、堂本印象美術館展のときにやりましたように、カタログ、はがきなどのグッズ類をあちらから買い取ってこちらで販売するという同じ形式をもう一度する予定です。あと、東京学芸大学デザイン研究室へのデザイン編集委託というのについてですけれども、こちらも堂本印象美術館展のときもされてたんですけれども、大学のデザイン研究室のほうでデザインをお願いしています。デザイン費がつかなかったりしたということもあるんですけれども、それ以上にやはり地元の地域の、市内の大学、研究機関と連携して、美術館の運営を進めていくということは非常に意義があるかと思いますので、その一環として今年もデザイン研究室へ編集委託しまして、共同でデザイン企画を今進めているところです。

【鉄矢委員長】　私のところではないです。お隣の正木研究室です。駅の８０周年のこういう三角のバナーをつくったり、学芸大の中でグラフィックデザインをずっとやっている先生です。

【大野学芸員】　この展覧会につきましても予算の範囲内でワークショップ等考えていく予定ですけれども、まだ具体的には決まっておりません。いろいろなことを考えているんですが、１つ、例えば市の経済課のほうから話が出ております江戸東京野菜からの町おこし事業というのがあります、アートツアー的に回遊して、はけの森美術館ですとか繊維博物館ですとかたてもの園などでイベントしてはどうかというお話も出ていますので、そういうことを考えております。美術館のすぐ近くにあるおむすび研究所とも何か一緒に出来ないかと話が出ています。開館３年目になりましたし、地域のいろんな活動している方と少しでも連携しながらワークショップもしていければと考えていますが、まだ決まってはおりません。田村一男展については以上です。

その他のところですけれども、施設案内を改訂しました。お手元にあるのが新しいものになります。実は在庫が切れてきたということもあるんですけれども、以前のものは開館前に非常に急いで作ったものですから、例えば、以前のものは表紙の正面入り口の美術館外観が、財団時代の写真を使用していました。新しく写真を撮り直してまして、今のものに差し替えました。中でいきますと、設立の趣旨ですとか、中村研一についての説明、あるいは沿革ですとか、そう

いうものがありませんでしたので情報を足しております。あと、喫茶棟のほうでオーブンミトンカフェが開業しましたけれども、最初の施設案内を作ったときにはまだ喫茶棟がなかったので、喫茶棟についても新しく情報を入れました。ということで新しくなりましたというご報告です。

広報の方に書きましたけれども、以前からもこちらの委員会でも議題になっております、広報をもう少し工夫していく必要があると認識しております。そのためにも、今回アンケートをつくって来館した方にどこで情報を得られたのかとか、市のどちら側、北からとか南からとか、アンケートをしていきまして、それを広報作戦に反映させたいと考えております。例えば市報などにしましても、以前は１回出した情報はもう出せないというのがあったんですが、何とかもう一度出せるように見出しを変えたりですとか、工夫しながら美術館の情報を、特にイベント情報などは出来るだけ繰り返し出していけるように工夫しているところです。

最後に調査ですけれども、今年度は予算がついているということを委員会で以前ご報告したかと思うんですけれども、中村研一・卓二生家美術館に調査に行くことが決まっております。あと、来館者の方から作品を持ってらっしゃる方の情報ですとか、いろんな中村研一作品に関する情報が入って参りますので、それも調査していきたいと思います。いずれ所蔵作品目録ですとか、年報ですとか、作っていくための写真原版つくりもしていきたいと思っています。

以上です。

【鉄矢委員長】　　ありがとうございます。

以上で平成２０年度予定事業についての報告なんですけれども、何かご質問とか、気になる点とか、ご感想でもいいと思います。今、学芸員さんに美術館でこの先にこういうことをやるんだという話をしていただいたので、ご感想だけでも何かありましたらお聞かせください。

【千村委員】　　いろいろ工夫した企画がたくさん、こんなことをやるのかとか思って、興味深くおもしろいなと思っていました。どのように学校の生徒たちにはアピールというか、情報を流すんですか。

【大野学芸員】　　学校には、広報の段階でチラシ、ポスター類を送っております。それを学校がどのように活用してくださるかは判らないのですけれ

ども、こちらとしては学校宛に送っております。

申し込みの状況を見ますとやはり市報が強いようで、市報を見て申し込みをされる方が多いようです。

【鉄矢委員長】　　はい。

【事務局天野】　　先ほど大野のほうから東京都内の教育委員会の女性委員の方の視察があった旨の報告がありましたが、その後、小金井市の教育委員会の副委員長からお礼の連絡を頂きました。その際に、小金井市は鑑賞教育等を積極的に行なっておりますし、今後も行なうつもりですので、委員の方からもそういう発言をお願いできたらということをお話しさせていただいていますので、今後、そういう部分からの協力も事務局からいただけるのかなと期待しております。

【神津学芸員】　　あとですね、具体的に話が進んでいるわけではないんですが、放課後プレイパークというのがありまして、何か教えるとかではなく児童とただ武蔵野公園のくじら山はらっぱで遊ぶということなんですけど、何か学校経由ですと動きづらいということがあるんですが、そうではなくてただ野川で遊んでいる団体、また助成金をとって遊びと文化というものをつなげて伝統ということで色々遊びということで放課後をつかって活動している団体が小金井市内にはあるということを教えていただいて、一度しか行っていないんですけれどもそういうところにも色々普及していこうとしています。あとボランティアで仕事を経験するという登録制のものもあるらしく、これはすぐ出来るというわけではないんですが、例えばボランティアスタッフとして希望した生徒が美術館で車椅子を手伝うとか、美術鑑賞とボランティア活動をつなげてということをしていけたらなと思っています。あと小金井市内にまだまだ色々な団体があるみたいですので、学校ということに限らずアプローチしていきたいと思っています。

【千村委員】　　実は私は市立の南小学校の放課後クラブの企画というか、あれなんですけれども、南小に関しては耐震工事が終わってから活動が始まるんですが、南小が一番近いから、今のお話をお聞きしたら、なるほど、放課後クラブの一環として来るのもいいかなと、すごく今思いました。みんな何をしようかってすごく悩んでいるんですよ。一応、見守りの人と、それから講

師みたいな形で何か教えるという人を募集してやりつつあるんですけれども、ちょっとアイデアで。それで私、子供たちがやはり自分の町の美術館として気楽に入ったり、いろいろできるようになればいいなと、そこから大人の人よりむしろそういう子供たちが自然に来られればいいなと思うんですが、今もお話があったように、先生たちはものすごく忙しくて、この間びっくりしたんですけれども、４月に１年生の担任の先生が武蔵野公園の入り口のところに来て、「えっ、こんなところがあるんだ」と、くじら山なんか全然知りませんから、「山まである、こんなところがある。授業で連れてこよう」と言っていたんですよ。

それで、私は何十年暮らしていて、そこら辺の動物や植物をいつも見ているので、自分からちょっと案内のお手伝いをしましょうということで、１年生３クラスを３回に分けて案内させていただいたんですけれども、そんな形で、ほんとうに身近なところを先生たちは見て帰るという暇もないですから。ここにはわんぱく夏祭りというすごく有名な何十年もやっている子供たちの活動があるんですが、そういうものも一切知らない先生がほとんどだし、はらっぱ祭りなんて、ましてみんな若者達の市のお祭りなんですが、ちょうど反対側の駅に向かって背中のほうにあるわけですから、あんまり訪れる人もなくて知られていないという状況があるので、やはり先生たちもどんどん新しい方が転任されるけれども、なかなか公園に来たりということがないんだけれども、先生たちに何とかツアーじゃないんだけど、まとまって格安で、もともと格安なのにって思うんだけど、そういう美術の先生が研修会で来るとかじゃなく、もっと先生たちに来てほしいという、先生のツアーじゃないんだけれども、来ていただくような企画みたいなものをしたらどうかな、例えば何曜日の何時から、先生達是非来てください、とすると先生からこういうところがあるんだと連れてくるのはできてくると思うんですね。春の自然観察のときも、１年生の先生たち、先生のほうがはまってしまって、召集かけても先生がヨモギをとってこれがヨモギって袋に入れたりしているわけです。ですから、まずそういう若い先生たちの啓発みたいなものを、この美術館のありかを知っていただいて利用していただくというのは一番子供たちに伝わるんじゃないかなと。そんなことを思いました。

【鉄矢委員長】　　小金井市の教員に着任するとそういう研修があるんですか。小金井市を調べるとか、小金井市を。

【千村委員】　　必要ですよね。

【事務局鈴木】　　新任の教員の研修というのがあります。

【鉄矢委員長】　　ありますよね。

【事務局鈴木】　　美術館も来たことがありました。初年度の頃か。

【鉄矢委員長】　　先生はちょっとやっていなかったように思う。指導実務があやふやなもので詳しいことは……。もしなければ館長からプッシュしていきますので。

【千村委員】　　公園もいっぱいあるから、小金井公園のほうとか、野川公園のほうに行ったりして、武蔵野公園なんていうのは、この間もテレビで、きのうか、小金井の話が特集になって出たんですよ。そのときに、小金井公園の話ばかりで、子供たちは小金井公園もいいんだけれども、この辺の公園はすごく素朴な遊び場として興味を持っているので、そういう話は出るかなと思ったら、全然小金井公園のお話だけだったので、やはり少しそういう……。

【淀井委員】　　手をかけ過ぎない公園という意味で、いいですよね。

【千村委員】　　そうですよね。武蔵野公園というのはあんまり知られて無いですね。武蔵野公園というのは、武蔵野自然公園というのが正式な名前だったんですが、今、武蔵野公園になりましたね。武蔵野にあるのかと思ったりする人もある。

【淀井委員】　　都立ですか。

【千村委員】　　都立です。２つ並んであるんですよね。

【鉄矢委員長】　　ありがとうございます。ほかにご意見とか。

【宮村委員】　　学芸員さんの説明を聞いて、大体よくわかりまして、だんだんいろいろなことを試しにやっていかれてすばらしいなと思うんですけれども、先ほどもお話があった町おこし事業のこととか、たてもの園のところのこととか、そういう意味で広げていったらいいかなと思います。どうしても、場所がやはりなかなかちょっと、場所が行きづらいというか、車でも行かれないとか、そういう意味でどうしてもちょっと孤立しちゃうのかなという、私自身そういう印象があるので、せっかく市の美術館なので、市のいろいろな連携

というか、そういうのを工夫されたらもっといいんじゃないかなと思いました。

【千村委員】　　それで思い出したんですけれども、さっきおにぎり研究所が一緒に何かやりたいなんていう話をしておられたんですけれども、おにぎり研究所がこのごろ子供たちとつながる企画をすごくやるんですね。例えば、どこかでもやっているような、長い巻きずしの体験とか、子供たちと楽しいケーキづくりって、普通のケーキではなくて、何かアイデアのケーキづくりを子供を集めてやったり、そんないろいろな試みをしているんですよ。だから、美術館はどういう人でそれがつながれるか、まさか美術館でケーキつくりは出来ないと思うので、どういうふうなことができるかわからないですが、そういうアプローチがあったら何か一緒に考えてやるというのもすごくみんなに知られるいいチャンスになると思うんです。

【鉄矢委員長】　　学芸員の視点で裏のパティシエのスイーツを見るとか。せっかく若い学芸員が２人いるので、楽しそうなところをもっともっと前に出してもいいのかもしれませんね。もっと幅広い芸術に関してという話でこの美術館が始まっていたと思いますので、今のところ足元である中村研一画伯のものをすごく着実なところはやらなきゃいけないんですけれども、やはり年月が経つに連れて少しずつ幅広い芸術に関するものというのは我々も期待したい。

【淀井委員】　　したいですね。

【鉄矢委員長】　　したいですね。はい。

　では、その他の（３）番に移ってよろしいでしょうか。２００８年所蔵作品展。

【薩摩顧問】　　一言だけ、私は顧問という立場で事務局の方にいますが、ちょっと補足で、今の今年度で申しますと、美術館を続けていくということ、美術館文化というもの、まあ英語で言えばカルチャーとして耕していかなきゃならないわけで、そういう意味では、あまり奇をてらったり、あせったりしてもしようがないと思う。むしろ、地道に同じことを繰り返し繰り返しやっていくような粘り強さみたいなものがどうしても必要なんですね。特に最初の１年目、２年目とか３年目はつらいですので、そういう意味では私もそうかもしれませんけど、美術館で仕事をしているものというのはあえて言われれば言われるほど自分が正しいと思い込むみたいな、そういう性格じゃないとなかな

かやっていかれないところだと思うんです。そういう点では、例えばちょっと微妙な言い方になるかもしれませんけれども、ギャラリートークとミュージアムツアーをですね、ここまでの間隔でやっていいかどうか、またもう少ししたら別の課題になるかもしれませんけれども、とにかくまず来なくてもかまわないという、こういう態度が必要になるんじゃないかと思います。

それから、模写も別に申し込みなくていいんです。ただ、人から借りてきたときはやりませんけれども、この所蔵展のときには金曜日に模写が出来る美術館ですよということを言っていれば、だんだん、模写が出来る美術館って非常に少ないですから、そういうことになってくると。あるいは、ワークショップもですね、このコラージュのやり方も非常にいいやり方で、これは実はいろいろな、要するに美術館の展覧会のチラシを集めてですね、それをつかってコラージュをしようということで、お金がかからない。そしてこのコラージュというのは、子供たちにとってみると絵が苦手だと、工作が苦手だという子たちが意外にできるんです、喜んで。切って貼っていけば良いので。ですから、やはりこれも１回で終わらすんじゃなくて、コレクション展のときは必ず入れていくということで、少し継続して、人が来ないとか儲けがないとか関係なくつくっていって、そういうものを今回入れておりますので、まあ企画展のときはこういうものには当てはめなくてもいいかなと思いますけれども、美術館として少し前進していければというふうにわれわれの方でも考えています。

それから、それぞれの関連にもなっているんですけれども、これもずっと続けて言ってますが、常勤の学芸員がほしいということと同時に我々のほうで主張していきたいのはこういう小さな美術館で少人数でやっていれば、とてもではないですけれども、開館日数をだんだん増やしていくことはこれは不可能である。いわゆる市の立場から言うと、文化施設というものは少しでも開館してもらいたいということはあるかもしれませんけれども、それは例えばプールとか、体育館とか、公民館とか、施設を貸せばいいところはそれは少しでも開館する期間が長い方が良いでしょうし、あるいは図書館のように本を貸す、閲覧するところは土曜日が休みですとか、日曜が休みですといったら望ましいことではないわけですけれども、こういう美術館というところは所蔵品の保存があり、調査があり、研究があり、そして展覧会の準備があり、そして大切な作品

をお借りする以上、施設の整備があるということで、これが非常に大きな美術館ならばどっちかを閉めてどっちかを開けてということも出来ますけれども、こういう小さな美術館ではそれは不可能ですので、やはりこういう形で休むということのメリハリは必要になってくるものと思います。

休んでいるから、決して職員が出勤しないで家で寝ているわけではないので、実は閉めているときに色々仕込んでいるわけですから、そういうところを少なくともこの委員会の方はご理解していただければと思います。よろしくお願いいたします。

【鉄矢委員長】　ありがとうございました。委員の皆さん、「けんぼしゃん」とはわかっておりますか。

【一同】　知らないです。

【鉄矢委員長】　わからないですよね。学芸員の方「けんぼしゃん」の説明をお願いできますでしょうか。

【神津学芸員】　けんぼしゃんは、中村研一がけんぼう、けんぼうと呼ばれているということで、あだ名ですね、中村研一でけんちゃんで、けんぼしゃんというものを地域の小学生なり地域の方々、小金井市民はみんな知っているという、定着させていこうという、ちょっと壮大な計画がありまして。

【鉄矢委員長】　けんぼしゃん、みんなから中村研一の生まれた福岡では「けんぼしゃん」と呼ばれていたそうなんです。

【神津学芸員】　それで、何も説明をせずに、お問合せがあったら説明しようと思っていたんですが、皆さんコラージュということには引っかかってくれたんですけれどもけんぼしゃんにはあまり引っかかってくれず。もし何かしらと言っている方がいたら是非説明してください。

【鉄矢委員長】　これは使い方は、子供向けの楽しいワークショップにこれを使っていくというスタンスなんですか。

【神津学芸員】　どちらかといえばお子さまと、お子さま向けというかお子さまからどなたでもという企画に対して。広く広めようという試みがあります。

【鉄矢委員長】　という試みが始まりましたので、ご理解よろしくお願いします。ご理解と普及のほどを、けんぼしゃんて知ってる？と聞いて。

それでは、（３）の２００８年所蔵作品展事業についての報告をお願いします。

【事務局天野】　　これについては、毎回運営協議会のほうの日程でお出ししておりますけれども、今回につきましても平成２０年度の案件を資料にしました。

１枚目でございますけれども、これは２００８年の所蔵作品です。３月２９日から６月１日まで開催して、月ごとの入館者数あるいは図録等の売り上げ等の一覧でございます。それから、７月１日から所蔵作品の２ということで、７月がおとといの日曜日まで、７月３日までの分の入館者数等の内容でございます。

２枚目でございますが、各展示ごとの入館者数、あるいは図録等の販売、はがき等の販売等の集計でございます。内容については資料をごらんいただきたいと思います。ちなみに、２００８年所蔵作品のうちの入館者数を１日当たりの平均が２１．３人という数字が出てございます、これは有料で入館された方です。それから、無料で入館された方を含めますと１日当たり２３．７人という入館者数になっています。

以上でございます。

【鉄矢委員長】　　ありがとうございます。その他のその他、ありますか。

【事務局天野】　　よろしいですか。今回、資料で前回の運営協議会の議事録をまとめてございますので、ちょっとお時間がない中ごらんいただいて、もし訂正等あるいは意見等がございましたら、事務局のほうに申しつけてください。修正があれば修正を加えて、ホームページ等のほうにアップをしていきますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

【鉄矢委員長】　　じゃあ、議事録のほうに少し目を通していただいて。

よろしければ、あと気になるところがありましたら、皆さんのほうから、朱書きなり何なり、わかりやすいようにということで、事務局のほうにお戻しください。

その他のその他……。

【事務局鈴木】　　よろしいでしょうか。すみません。

先ほどの学芸員の大野さんのほうの資料の中にあったんですけれども、学芸大学との連携というか、デザイン編集委託について、今までもお話が出ていた

のですが、学芸大学との連携につきましては、編集委託以外にも、今までもワークショップのときにボランティアに学生さんに入っていただいたり、それから、ワークショップの講師ですとか講演会の講師と、さまざまな形でご協力をいただいたところなんです。私どもは、市としては、美術館を運営するときに、以前いただいたこの提言に基づいていろいろな事業などを考えているんですけれども、当初、話し合いにあったように、現在の美術館の職員の体制の中で、これらの幅広い活動をやっていくのは非常に困難な中で、大学との連携というのが、これから非常に大きな課題になっていくのではないかなと考えております。

それで、これからどのような連携が考えられるかということですけれども、具体的に、今までもいくつかできつつありましたけれども、今後もこれを進めていこうと思っておりますし、美術館の運営だけではなくて、私ども、今、コミュニティ文化課では、芸術文化振興計画を策定しておりますけれども、芸術文化を振興する上での地域との連携、地域の大学との連携ということも考えていますし、周辺には美術大学もありますけれども、市内で美術関係の大学、美術関係学科を持っている大学というと、やはり学芸大学ということになりますので、いろいろな面で連携を進めていきたいなと思っております。

それは、コミュニティ文化課だけではなくて、例えば、今、環境市民会議で、環境教育学の学芸大学の先生方と連携していろいろやっていますし、幅広くというか、経済課も学芸大学の先生たちと……、先生もかかわっていただいているのでしょうか。

【鉄矢委員長】　　よく出ております。

【事務局鈴木】　　いろいろ学芸大学との連携といいますか、この中での地域との連携、地域の文化資源を活用してということでうたってありますように、やはり地域の団体、それから大学、さまざまな文化資源と言われているものを活用してこれからの運営を図っていかなくては、うまくいかないかなと思っておりますので、どのようなことが考えられるかも、また委員の方々にご提案いただいたり、それから、こちらからもご相談させていただきながら進めていきたいと思っておりますので、何かよいお考えをいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【千村委員】　　環境市民会議では、学芸大学のスペースに田んぼを借りて、稲をつくって、おもちつきをしたり、わらでしめ飾りをつくったり、そういうのも毎年出たんですけれども、そういうふうにやっていますし、環境討論というのかな、環境の先生たちのところで、いろいろな子供たちとのワークショップみたいなものも、知恵の輪をやったりとかしています。

１つ、鉄矢先生に質問があるのですが、この美術館と関係あるかどうか。

【鉄矢委員長】　　会長じゃなくて……。（笑）

【千村委員】　　学芸大学にちょっとした展覧会ができる小さな美術館がありますよね。

【鉄矢委員長】　　ギャラリーですか。

【千村委員】　　そうですギャラリーです。あれは、市民に有料で貸すとか何とかはできないんですか。というのは、小金井市は、市民の何かをやる美術館がほとんどないんです。少し、私立、私的なもの等はありますけれども、ものすごく費用がかかって、売る人はいいんだけれども、売らない人は発表の場というのがないんです。そういうギャラリーなんかを少し格安で借りられたらと。

【鉄矢委員長】　　格安かどうかは、全然、私もわかりませんけれども、地域連携推進本部というものがありますので、そこにご相談していただくと貸せるはずです。有料貸しはしているはずだと思うんです。学会とかそういうものが入ってきていますので、学会がそこで学会の大会をやるときは、お金を払ったり、お金を払わない場合は、議事録には載らないかとは思うんですけれども、学芸大学と共催で、大体、理科の祭典とかをやったり、科学の祭典みたいなものは、そういうのでやったりしておりますので、できないことはないと思います。

ただ、美術棟の１階にあった小さなギャラリーは、あれは「ギャラリー」と言いながらも今は研究室になっていますので、ないです。芸術館という穴のあいた壁のところで、ただし、知っている内容からすると、作品の保管状況は非常に悪いです。夜は空調がとまりますし、学生も夜中の出入りが自由で、シャッターも降りませんので、作品を置くということに関しては、そこの保障ができない。何か事故があったときには、大学は、責任はちょっと、とれない状況

の施設です。

その他、ございますでしょうか。

【小柳委員】　　実は、コミュニティ文化課で、今、主催しておりまして、「中東和平プロジェクト」というプロジェクトを、今、所管課の私どもがやっているわけなんですけれども、７月２８日から８月２日まで、５泊６日の予定で、イスラエル、パレスチナの紛争遺児の高校生を小金井市に招待して、ホームステイや交流事業を通じながら、お互いを知り合って、あるいは交流を深めて、平和について認識していただくということを、今年度、７月２８日から開催させていただきます。

７月２９日には、午前中なのですが、美術館を訪問しまして絵の鑑賞をしていただくと同時に、７月３１日には、中央大学の附属高校をお借りしまして「市民交流会」と名を打って、大々的に市民との交流、ふれあいを企画しておりますので、お時間がありましたら、ご出席のほう、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

【鉄矢委員長】　　ありがとうございます。

その他、ございますでしょうか。

じゃあ、私のほうから、２つほど。

「今、提言書がすごく重要なベースになっています」と言うんですけれども「提言書はあくまでも提言です」とも言われるそうなんです。だから、「この美術館の基本方針があれですよ」と言うのは、一定部分はあるんですけれども、基本方針としては、今、策定されていない状況らしいんです。だから、いろいろなことが起こったときに、それをジャッジする何かがない。ある事をしようとすると「あくまで提言ですから」と言われて、結局、今、３人体制にしようとどんなに言っても「提言に書かれているのは、あくまで提言だから」というところは、そこの部分だったりするんだと思うんです。

ですので、３年たって、やっと改正が見えてきた段階で、何とか美術館の基本方針みたいなものが少し明文化されるといいと思います。それを、次回まで少し内々で、今度は美術館のほうで、どういうスケジュールでそういうものを検討できるのか、うちは運営委員会なので、基本方針を策定する委員会は別に

つくるのか全くわかりませんけれども、少し考えていただくのはどうでしょうかというのが１点です。

それから、２点目が、我々は美術館に物を申す人間であるべき運営委員会だと思うんですけれども、その運営委員会に館長さんがいるのが混乱が起こるところで、別に悪口で名指しで何かするわけではなくて、これも多分、美術館として体制が、まだ海のものとも山のものともわからないときにつくった条例らしいんです。「条例で決まっているから」というのも、でも、条例は我々がつくっているものであれば変えられるのもありますので、その辺はどういうステップでやるものなのかとか、皆さんはどう思うでしょうか。運営委員会に館長が入っている。館長は、事務局として聞くという格好なのか、それとも、こういう委員の中に入って一緒になって合意する。例えば、今回の場合も、さっき「やってくださいね」「はい」という返事があるときに、委員の中で合意したほうがいいのかというのがあるんですけれども、その２点がちょっと私は気になって、３年目、ここでまた委員が一新しちゃうとこういう議論はできなくなりそうな気がするので、少しこういったことを考えたらどうでしょうかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

【淀井委員】　美術館の館長というのは、ちょっと独立した人じゃないんでしょうか。漠然としていますけれども、よそからという感じでここに来ているのかと。

【鉄矢委員長】　よそからですか。

【淀井委員】　内部じゃない。

【鉄矢委員長】　市の内部の事情とは、また別のという意味ですね。今、兼任みたいなところなんですか。美術館運営に詳しい学芸員に聞きますけれども、この体制というのは……。

【薩摩顧問】　おかしいです。

【鉄矢委員長】　おかしいんですか。

【薩摩顧問】　国公立系の場合、私は東京都にいましたし、それから芸大、それから、ほかの県のいろんなところも見てきましたけれども、館長は、ほかから来た人であれ、あるいは県の職員であれ、館長は事務局側であって、そして、大体、運営委員会というのは、決定権は委員会には、そこまでありま

せんので、館長の諮問機関に値するんです。ですから、これをつくっていくときに、こちらにそういうものがなかったとか、あるいは、どういう体制になるかわからなかったという部分もあるんでしょうけれども、例えば、我々学芸員も含めて、実際の現場で運営している者は事務局の側であって、そして、その完全な諮問機関として運営委員会は成立していると。その中に県の職員が……、県の職員が入っているところは、私は、あまり知らないですけどね。

あと、もう一つは、これは委員会でも問題になっちゃったんですけれども、いわゆる収集評価委員会も、例えば、あそこの委員にこちらの学芸員が入っているというのはおかしいわけで、学芸員は収集したいものをこれでいいでしょうかと諮問する立場なので、ですから、このやり方だと、多分、一番ご苦労されるのは、どうしたって館長さんなわけです。立場がおかしくなっちゃって。

【鉄矢委員長】　ですので、３年目になって一度改正を、今年度いっぱいで何か改正を少し見直すなり何なりする、そんなに急に動かせないんだったら、どうか少し動く方向に何かするというのを検討していただくようなことを今回オーケーするのか、次回の運営協議会まで、ちょっと皆さんで考えていただいて、次回の運営協議会で、「じゃあ、そうしてください」という話でもいいと思うんですけれども。

【小柳委員】　今のお話なんですけれども、小金井市立はけの森美術館条例の１２条ですが「協議会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、または任命する委員６人以内をもって組織する。」ということで「市民２人以内、学識経験者２人以内、館長１人、市に勤務する職員１人以内」ということで書かれています。ここを直すとなると、議会のほうにもかけなければいけないという手続がありますので、そういうところで。

【鉄矢委員長】　私が思っているのは、どんな手続であろうと、やはりより質のいい美術館なりを目指す体制に――少しずつわかってきたことは、やっぱり手間がかかっても直していかなければいけないのかなと思っています。ですので、これを次回ぐらいに、皆さん、いろいろな美術館を少し見ていただいたり、聞いたり、いろいろな話をして、次回はいつか、まだわかりませんけれども、次回の中で判断できたらと。今回はそれを、内々には美術館のほうに少し検討を考えてほしいということを言っていくような格好の私からの提案で

よろしいですか、そういう位置づけで。

もう一点、一番最初に言ったのは何でしたか。提言書、この美術館の基本方針みたいな形というのは、学芸員の方々はどういうふうに考えていますか。今、使いにくいのかどうなのか、ちょっとお話しいただけると。

【大野学芸員】　学芸員のほうとしましては、一年契約の非常勤で最長５年までという形で働いておりますけれど、そういう形で、短期で働いている学芸員としては、長期の、市として美術館をどういうふうに運営していくのかという基本計画、方針というものがなければ、なかなか継続した事業を進めていけないということです。今回もメンバーの状況は変わっていますので、こうやって変わったときにちゃんと引き継げるように、基本方針がぶれないようにするためにも、基本方針というものはあるべきだと学芸の方では思っています。

【鉄矢委員長】　顧問の先生は。

【薩摩顧問】　とにかく、やはりこれをつくってくる――私、作るのは今までかかわった美術館というのは、べったり関わったのは東京都美術館と藝大美術館ですけれども、他にもいろいろ、それぞれまったく事情が違っていて、ひとつとして同じ方向で出来上がってこないんですよ。ですから、そういう点では、ここも前例があるわけではないですから、こういう場合ではというのがわからない。今回は、ここの場合には、こういう小さな規模とはいいましても、小金井市の中心に、非常に、ある意味良い設備、施設が寄贈されるという形で、しかも、まだ、そこには遺族の方も住まわれているとかという、かなり変則的な状況で開館しているんです。しかも、残念ながら小金井市の財政は非常に厳しいということもございまして、ですから、美術館は運営するけれども、お金はかけるなというようなそういう状況です。

それから、もう一つは、小金井全体の再開発の問題があって、市民交流センターにギャラリーも開かれますし、そこができた暁には、じゃあ、交流センターと美術館はこういう関係になっていくとか、あるいは、そこで交流センターと美術館を一緒にしたような大きな組織できるのかとか、そういう問題が非常にはっきりした状況で来ていましたので、その辺の負担というものが多分この学芸員に一番かかってきたわけです。それで、３人も一度に辞めてしまうということがおこってしまったのかなと思うんですけれども、やはり活動していく

と、大体ある程度我々も見えてきますし、周りもだんだん僕らを理解してくださると思いますので、どっちが先かという問題じゃないにしても、少し提言を踏まえた上で、指針のようなものなり何なりはつくる方向で考えるべきだと思います。

ただ、それをどこでどう出していくかというのは、たとえば運営委員会から館長のどうのこうのという、その１つだけを議会にぶつけると、また事が進まないので、少し総体的にまとめて、あるタイミングで出したほうがいいと思います。ただ、そのための準備をしなくちゃいけない。

【鉄矢委員長】　皆さん、お含みおきいただいて、事務局のほうにも、お含みおきいただくということで、次回の運営協議会等で少しまた話し合いができればと思います。場合によっては議題に上がるかもしれないです。それは、美術館の事務局のほうの動きに合わせて、タイミングがもし今だったら、こうなってこうやったときに、運営協議会自身の話として何かコメントがあったほうがいいんだったらそうなりますし、別に運営協議会、この場はこれで、それはそれで動くんだったら、動かしていただいても構わないというふうに考えます。

私からは、この２つであります。

そのほか、ございますか。

【事務局天野】　次回の運営委員会の開催ですが、ちょっとまだ具体的な日程は決まっていませんけれども、８月から１０月ぐらいにかけて開催したいと思います。

【鉄矢委員長】　８月から１０月ですか。

【事務局天野】　はい。といいますのは、来年度の具体的な内容、それから、来年度の予算の関係について、当協議会にお諮りしたいというふうに考えていますのでご案内させていただきたいと思います。

【鉄矢委員長】　そうですね。わかりました。

そのほか、ありますでしょうか。

では、なければ、平成２０年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

—— 了 ——